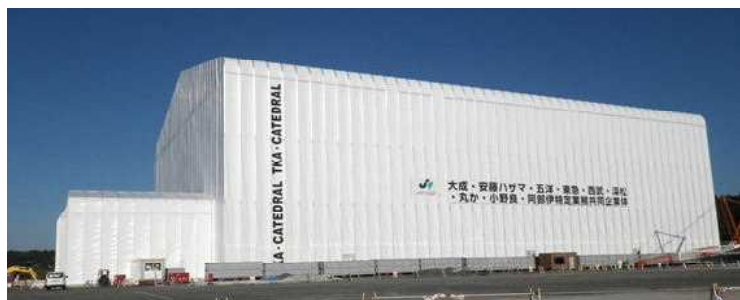




小泉地区で焼却炉解体完了

東日本大震災で発生した震災廃棄物を処理している気仙沼の小泉処理区では、廃棄物の焼却処理が8月で終了しました。処理区内には巨大なテントが建設され、この中で2基の焼却炉が周辺に影響を与えないように解体されていましたが、11月22日で解体作業が終了しました。テントの解体撤去も12月中に終了する予定です。

また、南三陸地区の焼却炉は10月26日に、階上地区の焼却炉は11月16日にそれぞれ焼却処理が終了しており、同様に巨大テントを使った焼却炉の解体が行なわれます。



仮設テントの大きさは、奥行き60m、幅90m、高さ38mと国内最大です。



周辺に影響を与えないように焼却炉をテントで覆い、管理された密閉空間内で解体作業が行われました。



焼却炉解体の様子です。

薬物乱用防止教室

10月10日(木)、条南中学校で1年生を対象に薬物乱用防止教室を開催しました。講師は薬物乱用防止指導員の幡野玲子氏と、気仙沼警察署の亀山岳也氏にお願いしました。



断る練習の様子

幡野氏からは、大麻や覚せい剤などの薬物の恐ろしさ、薬物の誘いに乗らず、心と体を健康に保つことの大切さをわかりやすく教えていただきました。

亀山氏からは、薬物を乱用すると逮捕されてしまうことや、薬物乱用者の多くが未成年のうちに飲酒、喫煙に手を染めていることを教えていただきました。皆さんは真剣に聞き入っていました。

最後に、先生と保健所職員が薬物を勧める役になり、何人かの生徒さんに薬物を勧められたときの断り方を練習してもらいました。皆さんははっきりと断ることができていました。

被災地感染症対策セミナー開催

10月11日(金)気仙沼保健福祉事務所にて、保育所・幼稚園職員、小中学校養護教諭等を対象に被災地感染症予防対策セミナーを開催しました。

国立感染症研究所感染症疫学センターの中島一敏先生を講師にお招きし、冬場に流行するノロウイルス・インフルエンザ、今年流行した風しん・手足口病についての講話をいただきました。

その後、当所職員がモデルとなり、個人防護服(PPE)の着脱デモンストレーションと、参加者全員でマスクと手袋の着脱を実践しました。



国立感染症研究所感染症疫学センター 中島一敏先生

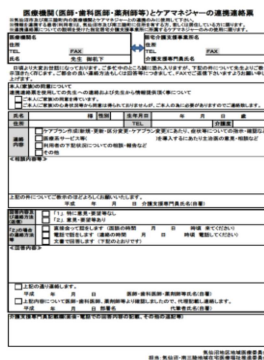


防護服着脱の様子

参加者からは、「流行している感染症への理解が深まった。」「消毒液の取扱い方法、嘔吐物の処理等、今後に活用できそう。」といった感想が多く寄せられ、感染症の流行時期前に予防への意識を高め、対応方法の確認ができました。

医療機関とケアマネジャーの連携 連絡票説明会を開催!!

10月17日(木)気仙沼保健福祉事務所にて、宮城県ケアマネジャー協会気仙沼支部と当所主催による「医療機関(医師・歯科医師・薬剤師等)とケアマネジャーの連携連絡票説明会」を開催し、50名を超えるケアマネジャーの皆さんに参加いただきました。



↑ 連携連絡票

連携連絡票が適切に運用され、要支援・要介護状態にある方々が安心して日常生活を営むために必要な保健・医療・福祉サービスを、適切かつ効果的に受けられることが期待されています。

この連携連絡票は、平成23年8月に気仙沼地区地域医療委員会内に設置された気仙沼・南三陸地域在宅医療福祉推進委員会、当圏域での医療と介護の連携強化を図るために、気仙沼市医師会・気仙沼歯科医師会・気仙沼薬剤師会の了解のもと作成されたものです。当圏域の医師・歯科医師・薬剤師等とケアマネジャーの連携を円滑にし、「顔の見える関係」・「信頼関係」を構築することが目的です。



復興に奮闘!

【気仙沼市社会福祉協議会】

今回は、気仙沼市社会福祉協議会の芦立課長からお話を伺いました。被災から再建した「大谷ティサービスセンター」と「やすらぎティサービスセンター」のことや、社協としてのこれからの取組についてお聞きしました。



「2つの新しいティサービスセンターの売りは、ぬくもりを感じられる古民家風仕上げにするとともに、「健康志向」を前面に出し、岩盤浴やラドン風呂を備えた点です。また、地域貢献の観点から、休業日に施設を地域に開放する取組も行っており、世代間交流の場としても活用していただいています。」

両事業所とも震災による津波で流されてしまいましたが、地元の人たちの理解や支援があり、しばらくは仮設での営業を行っていました。お風呂がないなどの不便もありましたが、継続して利用していただいた利用者の存在がありがたかったです。



今後の取組として、現在気仙沼市と地域福祉活動計画を作っています。そこでは、震災によって地域がダメージを受けている中、それに対し社協としてどのような支援をしていけるかがテーマとなっています。そして、介護だけでなく、利用者やその家族の悩みや不安などの生活課題も包含してケアしていくことが必要であると考えています。ティサービスなどの施設が媒介となり、社協全体として地域福祉にどう貢献し、支援していくかがこれからの社協の使命になると思いま

理容所・美容所の「衛生消毒講習会」を開催

10月28日(月)午前、美容組合気仙沼支部と当所との共催で、衛生消毒講習会を開催しました。

69名の組合員が参加し、桐生保健所長による講義「みやぎ健康21第2次計画を読み解く～100歳まで元気に過ごすコツ～」と、吉田技師による講義「消毒液を作ってみましょう」を受講していただきました。

続いて、桐生保健所長からラジオ体操のポイントを学びつつ、参加者全員で元気に楽しくラジオ体操を行いました。

同日午後は、理容組合気仙沼支部と共催で、衛生消毒講習会を開催しました。

56名の組合員が参加し、吉田技師による衛生管理に関する講義と、気仙沼市総務部危機管理課村上主査による講義「気仙沼市の被害状況と防災対策について」を受講していただきました。



平成25年 母子保健功労者表彰受賞!



【気仙沼市本吉総合支所保健福祉課 三浦祐子保健師】

本吉地域の母子保健に長年携わり、震災で自らも被災しながらも地域のつなぎ役として復興に向けて尽力してきた三浦さん。今回、その功績が認められ、10月17日に山形県で行われた『平成25年健やか親子21全国大会』において母子保健功労者表彰を受賞しました。

三浦さんによると、母子保健とは、人生の基盤に関わるもので、生後2か月頃に感情が芽生えて精神の基礎となり、また、味覚も発達して食生活を初めとした生活習慣の第一歩が始まるので、子どもの成長に関わることは、家庭生活に踏み込んだ保健活動が必要となり、そのためには地域住民との関係づくりが大切とのことでした。

三浦さんは「本吉地区は地域柄受け入れも良く、先輩保健師がこまめな家庭訪問で住民との関係を築いてくれたお陰でとても仕事がしやすかったです。今回の受賞は、私ひとりのものでなく、先輩保健師の取り組みのおかげです。今後も地域の皆様が健康でいられるように、今回の受賞を励みにして、頑張っていきたいです。」と控えめに喜びを話されました。



ふかひれさんの

栄養は元気の源 ～正しく美味しく食べましょう!～



今回のテーマは塩エコ(eco)です!

【塩エコ(eco)とは?】



塩の節約を意味します。塩は人体に不可欠ですが、過剰摂取は高血圧の原因となるため、なるべく控えることが大切です

平成22年度宮城県県民健康・栄養調査の結果、1日当たりの食塩摂取量は、男性11.9g、女性10.4gであり、目標とする男性9g、女性8gより多い傾向にあります。そのため、宮城県では『減塩あと3g!』を目標に、塩エコ(eco)活動を普及啓発しています。

【具体的にどうしたらいいの?】

- ★ “だし”を効かせた料理で減塩に努めましょう。
- ★ 味噌汁は1日1杯に努めましょう。
- ★ 「ひと味何かが足りない・・・。」そんな時は! ネギ、にんにく、しょうがなどの薬味を足してみよう。



宮城県では塩エコに関するパンフレットを作成しています。塩エコ(eco)活動にご活用ください。



パンフレットPDFは、こちらからダウンロードできます。

<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/124287.pdf>



